

令和2年度 東北歴史博物館協議会議事録

日 時 令和3年2月2日(火)

13:30～15:35

場 所 東北歴史博物館 大会議室

出席者・委員(50音順)

大河原町立金ヶ瀬中学校校長	大内 恵美
多賀城市芸術文化協会会長	菊池 すみ子
株式会社河北新報社取締役編集・防災教育担当, 編集局長	今野 俊宏
多賀城市立城南小学校PTA会長	立川 靖子
(会長) 東北大学名誉教授	平川 新
宮城学院女子大学現代ビジネス学部教授	宮原 育子
東北大学大学院文学研究科長	柳原 敏昭
(副会長) 名取市立下増田小学校校長	渡邊 美由紀

次 第

- 1 開会
- 2 挨拶 宮城県教育庁教育監兼教育次長 松本 文弘
- 3 委員及び事務局職員紹介
- 4 議事
 - (1) 令和2年度事業報告について
 - (2) 令和3年度事業計画について
 - (3) 東北歴史博物館中長期目標令和2年度自己評価(12月末現在)について
- 5 その他 宮城県文化財保存活用大綱(案)の概要について
- 6 閉会

(配付資料)

- 1 会議次第
- 2 東北歴史博物館協議会委員名簿
- 3 席次表
- 4 歴史博物館協議会条例
- 5 資料1 「令和2年度事業報告」
- 6 資料2 「令和3年度事業計画」
- 7 資料3 「東北歴史博物館中長期目標令和2年度自己評価(12月末現在)」
- 8 宮城県文化財保存活用大綱について

1～4まで記載省略

議事概要

議 長	この協議会は公開でございますが、傍聴人はおりますか。
総括次長	おりません。
議 長	では、早速議事に入りたいと思います。 1の「令和2年度事業報告」について、事務局からお願いします。

副館長兼
企画部長

(説明の概要)

【令和2年度事業報告】

1 企画展示事業

(1) 常設展示

- ・総合展示は通年，総合展示室で旧石器時代から近現代までの東北地方の歴史を展示。
- ・テーマ展示は，3つの展示室で合計14テーマの展示を実施。

(2) 特別展示

【みやぎの復興と発掘調査】展

5月19日から6月14日まで24日間開催。東日本大震災から10年目の節目を迎えるということで，これまでの復興状況と復興事業に係わる遺跡の発掘調査結果を紹介した。山元町合戦原遺跡から出土した鉄刀や馬具は初公開となった。関連行事は全て中止。観覧者数は1,528人。

【GIGA・MANGA 江戸戯画から近代漫画へ】展

令和2年7月4日から9月6日まで56日間開催。世界の共通語となった漫画の起源に迫り，江戸戯画から昭和戦中期の漫画作品等を通じて，日本の漫画の変遷を展示。関連行事として展示解説，講演会などのほかギャラリートーク，ワークショップを実施。観覧者数は12,899人。

【伝わるかたち／伝えるわざー伝統と変容の日本建築】展

令和2年9月26日から11月23日まで51日間開催。建築の様々な情報がどのように伝達し変容したのか，その技法や知恵，意味や背景に迫る日本建築史の新しい展覧会として開催。関連行事では，記念講演会，ワークショップなどを実施。観覧者数は3,982人。

【パネル展】

「令和元年度宮城の発掘調査」，昭和初期にみる海図の世界」，「記念物100年」の3回のパネル展をエントランスホールで開催。

2 教育普及事業

(1) 施設運営

- ・こども歴史館 小学校利用利用は26校，利用児童数は5,976人。
- ・図書情報室 利用者数は1,727人。
- ・今野家住宅 利用者数は1,837人。

(2) 催事事業

- ・館長講座(8回)，博物館講座(23回)，体験教室(8回)，多賀城跡巡り(6回)，体験イベント(2回)を実施。参加人数の制限や回数を減らして実施。

(3) その他の教育普及事業

- ・学校校教育との連携では，校外学習で来館した児童・生徒に講義を実施。
- ・「地域と共働した博物館創造活動支援事業」として講座開催や資料集作成，学芸員と巡る寺社ツアー，民話伝承事業を実施。

3 調査研究事業

考古，民俗，歴史，美術工芸，建造物，保存科学の6分野において，宮城県，東北地方を中心に調査研究を実施。これらの調査研究の成果については，研究紀要や定期的に開催する講座などで公開。

4 資料管理事業

(1) 資料の収集・利用

実物資料の購入はなし。資料寄贈は8件856点。

(2) 保存環境・保存処理等

収蔵庫，展示室の環境確保や，遺跡等の出土資料の保存処理などを実施。そのほか，他自治体からの調査依頼に対して調査協力や指導助言を実施。

5 東日本大震災対応

(1) 被災文化財の保全活用

県内の被災文化財の保全・修理活動を行うほか修理や保存に関わる技術的研究も推進。

	<p>(2) 県内復興関連発掘調査への協力 引き続き県文化財課が行う復興関連の発掘調査に考古学分野の職員を1名派遣。</p> <p>6 新型コロナウイルス感染症への対応について</p> <p>(1) 東北歴史博物館では、一部施設の休止を経て4月11日から5月18日まで休館。再開後も入館者数の推移は低調で、令和2年度の来館者数は過去最少となる見込み。</p> <p>(2) 県対策本部や日本博物館協会の策定したガイドラインに基づき、マスク着用や手指消毒の徹底、ソーシャルディスタンスの確保など適切な感染防止対策を講じて開館している。今後とも感染状況に応じた対策を講じていく。</p> <p>7 その他</p> <p>(1) 入館者統計 12月末時点の入館者数は38,977人。前年同時期比約5万9千人減。人数減の要因として、38日間にわたる休館と観光者数の減少によると思われる。</p> <p>(2) 友の会 12月末時点の会員数は、賛助会員21件、家族会員104組(292人)、普通会员227人、学生会員6人で合計358(実人数546人)。</p> <p>令和2年度特別展観覧者アンケート概要</p> <p>(1) アンケートの回収率(アンケートは夏・秋の特別展で実施) 特別展観覧者合計16,881人に対し、回収数518枚、回収率3.1%</p> <p>(2) 来館者の属性</p> <p>①男女別では、GIGA・MANGA展では女性が、伝わるかたち／伝えるわざ展で男性が若干多い。</p> <p>②年代別では、昨年度は60歳以上が全体の39.1%を占めていたが、今年は22.2%。比較的若い世代の割合が増加し、今回の展示がより幅広い層が興味を持たれたものと考えている。</p> <p>③居住地別では、伝わるかたち／伝えるわざ展のみの結果だが、仙台市が最も多く概ね昨年度と同様。</p> <p>(3) アンケートでの主な意見 大変満足したという意見の一方で、展示室内を明るくしてほしい、専門的な用語が難しかったといった要望があった。これらの要望に対し、表示方法を見直すなどできるものから速やかに対応し、よりよい展示に努めた。</p>
議長	<p>ただいまの報告につきまして、何かございますでしょうか。</p>
宮原委員	<p>7ページの催事の運営なんですけど、今回新型コロナの影響があったということですが、全部対面で実施された事業なのか、例えばオンライン等で何か試みられたことがあれば教えてください。</p>
副館長兼企画部長	<p>今回、(2) 催事運営で実施したものは全て対面で実施しております。ただし、講堂あるいは研修室を使った事業については最大収容人数を設定しまして、その最大定員という形で行いました。通常ですと、当館では先着順という形での催事参加が多かったんですが、今回すべて事前予約によりまして、お名前とか連絡先を頂戴した上で参加していただくと。当然、参加に際しましては、コロナ対策を十分とっていただくことを条件の上参加という形で、これらの事業は運営いたしました。</p>
宮原委員	<p>オンラインでの開催は今年何かありましたか。</p>
副館長兼企画部長	<p>特には、オンラインでの開催は行いませんでした。</p>
宮原委員	<p>ありがとうございます。</p>

議長	<p>他にいかがでしょう。今のお話なんですけど、今年は、予期しない事態でしたのでなかなか準備ができなかったということになると思いますけれども、新型コロナもそうですけどこういう新型の感染症っていうのは、繰り返しいろんな形で起きるだろうと言われておりますので、流行すると閉館というだけの話ではない。今後なかなか対応が難しくなると思いますので、閉館中でも今お話のありましたオンラインで展示が閲覧できるとかですね。そのような工夫をしていく必要はあるんだろうと思うんですね。特別展なんかはなかなか難しい話だと思うんですけども、本館で企画してるテーマ展示など、幾つもの展示が企画されて、常設展とは別に出されておりますので、そういったものをうまく編集して、ビデオにしないで写真でもいいと思うんですけども、解説を付けながらオンラインで視聴できるような工夫をしていくと。こういう事態になったときに、そういう対応ができればよいかと思えます。そしてそのアクセス数を入館者とみなすという形で対応すれば、来館者数が激減しましたということではなくて、新しくお客さんを確保できましたとなる。これは、収入にはならないんですけど、公的な機関ですからそのような形で情報発信を工夫していただければいいなと思えます。</p> <p>先ほどちょっとお話をした時に県の側はなかなかそういうシステムがちゃんと整ってないというお話もありましたけれども、オンラインでユーチューブなどあまり手間のかからないお金のかからないやり方で、博物館の存在をアピールしていくことも、是非、工夫していただければと思います。</p>
副館長兼企画部長	<p>貴重な御意見どうもありがとうございます。技術的な面も含めまして、頑張っていきたいと思えます。</p>
議長	<p>他にいかがでしょうか。</p>
今野委員	<p>特別展の「GIGA・MANGA展」ですね、確か去年のこの会でも、弊社も主催となっているんですが、タイトルは何かならないのかっていう話があってですね、私も事業担当役員らと話をしたのですが、共催している他の新聞社がこの名前前で全国を巡回してるので何ともならんということでした。</p> <p>私も2回ぐらい見ましてなかなか面白いなと思ったんですけど、一つお伺いしたいのは、アンケートを見ると、県外の割合が6%ぐらいでしたか、多分時期的には最初の緊急事態宣言が解除されて少し緩んだあたりだったんですけど、やはりコロナ禍で県境をまたぐ移動に心理的バイアスが掛かってる部分ってあると思うんですが、やっぱり県外の方が6.3%というのは比率としては低い方なんでしょうか。特別展の内容によって大きく変わるとは思うんですけど、予想していたより県外が少なかったなっていう実感はおありですか。</p>
副館長兼企画部長	<p>まず、夏の展示でちょうどお盆期間でしたが、あの頃は帰省もなかなか困難だというような時期で、県外の方も当館を訪れるのが非常に難しいという状況ではありました。例年ですとやはりこの夏の展示というのは、お盆の期間でこちらに戻ってきた方がお越しいただくということで、夏の展示は県外のパーセンテージは上がる傾向はあると思えます。今年度そういったようなことがあって、少し少なかったのかなという感じがいたします。データのことは担当から。</p>
情報サービス班長	<p>例年と比べてということですが、昨年度のマダンデザイン展ですと、県外の割合が16.7%ということでしたので、やはりアンケート数にもよりますが、全体的に少なかったという印象は持っております。</p>
議長	<p>よろしいでしょうか。</p>
柳原委員	<p>まず8ページにあります連携大学院に関しましては、御協力どうもありがとうございます。調査研究事業についてなんですけれども、9ページの一番上にある被災ミュージアム再興事業が、東日本大震災10年の区切りで、今年度で終わりということになりますよね。</p>

	<p>12ページを見ますと、被災ミュージアム再興事業が1,400万円ぐらいお金が入ってくるということですかね。で、それに比べて調査研究事業が100万円ちょっとということなんですけども、今年度はこの調査研究事業は、この被災ミュージアム再興事業の1,400万円プラス、調査研究事業としての100万、あと、二つぐらい補助金があるんでしょうか。この被災ミュージアム再興事業の1,400万は、大体この調査研究事業に使われてるというものなんですか。要するに来年度大変だなんていうふうに思う訳なんですけど。</p>
学芸班長	<p>被災ミュージアム再興事業はあくまでも、被災資料の修理・応急処置に対する予算でございまして、この1,400万円が直接調査研究に使われるという性質のものではございません。この事業を推進しながら、よりふさわしくよりよい修理・応急処置の方法を検討しているという類のものでございまして、そのまま調査研究というような認識をしてはございません。</p>
柳原委員	<p>はい、わかりました。1,400万円は、今年度で終了ということですね。</p>
議長	<p>他にいかがでしょう。</p>
大内委員	<p>13ページの(3)入館者統計が昨年度との比較で書いてありまして、7月8月を見ると昨年度より入館者数が多い。多分これは「GIGA・MANGA展」を目的とされた方々が多く来たんだろうと推測されるのですが、観覧者数が1万2,899人。予想としてはどのぐらいを予想してたんでしょうか。随分来てるのかなと思ったんですけど。</p>
企画班長	<p>こちらはもともと2万人ぐらいを想定して企画したものです。これはちょっとコロナのことは想定なくて、それくらい入れれば十分採算がとれるだろうとやっておりました。結果としてこういう形になったんですけど、先ほどお話しましたように、普段当館の方へ、あまり足を運ばない世代の人たち、若い人たちそれから、お子さんを連れてお母さんお父さんや若いカップルなども来ていただいて、改めて当館の存在を認識していただいたということで、非常に効果があったというふうに考えております。</p>
副館長兼企画部長	<p>特別展の開催内容によって結構、人数が変わってくるんですね。昨年度の夏は「モダンデザイン展」という特別展を開催いたしまして、ちょっと人数が振るわなかったと。今年度「GIGA・MANGA」という、今班長から説明しましたような、やっぱり幅広い層にアピールできる展示ができたので人数が増えていると。コロナがあってなんで今年が増えていいのかと疑問を持たれるかも知れませんが、特別展の内容によって大きく人数が動くというのが現状でございます。</p>
大内委員	<p>うちの家族も2回見に来てるんです。というのも展示を入れ替えているというのが、私はわからなかったんですけど、息子夫婦はSNSでそれがわかってもう一度行こうと、ということで展示の内容入れ替わったのはよかったんじゃないのかなと思いました。</p>
議長	<p>情報発信ですね。SNSで発信して増えていくと。</p>
渡邊委員	<p>私も特別展を見させていただきました。「GIGA・MANGA」も見させていただいて、随分子供たちや家族の方たちが来館してるなあという感じを持ちました。本当に親しみを持って見られる展示だったのではないかなと思います。</p> <p>その前に展示されておりました「宮城の復興と発掘調査」について、当初の予定は44日間だったんですけど、コロナの影響で実質24日間しかできなかったということですが、これも見させていただきました。実は私の前任校が、山元町内の小学校でして、ここにも書いていただいているんですけども、合戦原の遺跡について、多分こちらの協力もいただきながら山元町の民俗資料館の方にきちんと移して展示をされていると思うんですね。それも見させていただいて感激したんですけども、こちらの方で発掘されたものも綺麗に展示していた</p>

	<p>だいて、あれは、震災後に発見されたもので、私は新しい出土品として展示していただいてありがたかったと思っています。</p> <p>実は9ページのところに、文化庁との絡みで、いろんな分野で仕事をさせていただいてるのに感謝するんですが、民俗のところなんですけれども、その欄の下から5行目辺りですね、「県の沿岸域を見た場合、震災前後の民族のあり方について」というところなんですけど、実は山元町も私が現在勤めている名取市内の海岸の方も、だいぶ集落はそこには成立しないような状況になっています。でもそこにはしっかりと文化が、歴史があって民族学がきちんとそこに伝わってというところがあるんですけれども、そこに人が住めないという状況で、ここで何百年と伝わっている神楽とかそういうものがもうほぼ消滅の状況になっています。でも絶対消滅させたくないという思いで、その地域の人たちが数名集まって、何とか継承できないかっていう状況の中で、実は小学校の子供に神楽とかを引き継ぎたいけれども子供の減少もあってそれが延々と続くかというところちょっと難しいし、沿岸部の神楽だけが継承できるわけではなくて、どうしても山手の方の神楽と融合したものが伝わってしまっているということもあります。となると、本当に昔から沿岸部にあった民俗学的なものが全く消えてしまうことは、私はとても残念だなと思っていますので、喫緊の課題だというふうに書かれていますので、その調査それから資料として価値のあるものであれば、やはりしっかりと保存していただきたいなと思っています。なかなか厳しいところではあると思うんですけれども、進めていただければありがたいと思います。</p>
議長	<p>ありがとうございます。文化の継承をどういうふうにやっていくかというのは、本当に大きな課題だと思います。</p> <p>立川委員、どうぞ。</p>
立川委員	<p>城南小学校PTA会長の立川です。今年度もまた緊張しながらまた楽しみにさせていただきました。</p> <p>まず7ページ8ページなんですけども、小学校の学校教育の連携というところで、先月学校に行きまして教頭先生と話した時に、今ちょっとなかなか校外学習がままならないということで、本当に急ぎではあったみたいなんですけども、お願いしたところすぐに子供遊びとか、一年生なんですけども、受け入れてくださって、校外学習に変わるということをしていただいたということで、かなりありがたかったとおっしゃっておられましたので、こういう活動は大変すばらしいと思います。非常にありがとうございました。</p> <p>それと、展示物に関してなんですけども、私も「GIGA・MANGA」ですとか、「伝わるかたち」など見させていただきました。率直な意見でこのアンケートのとおり、私もどちらかというところちょっと難しかったなというのが正直なところですね。かなり専門用語がたくさんあって覚えきれずに、難しいなあと思ってたんですけども、専門的なことに触れるというのがやっぱり博物館の役目であるだろうとも思いますので、簡単なものばかりではなく、専門的なことも一般公開していくというのが大切だろうなと思います。</p> <p>こちらの「伝わるかたち／伝えるわざ」は難しかった印象はあるんですが、ちょっと私の周りの方ですね、その前の「GIGA・MANGA展」は、やっぱりすべての年代層にマッチしてたんじゃないかっていうことで、バランスが取れているのではないですかって言うことでしたね。</p> <p>今年は特に、このコロナがありましたので、ガイドラインなんか結構厳しく設定された中で開催だったかと思いますが難しいところもあったかと思いますが、年間を通してバランスがとれたのかなと思いますと、開催できたことが、そもそも本当にありがたく、よかったなと思っています。</p>
議長	<p>総合的な評価をありがとうございます。</p> <p>先ほど渡辺委員から伝統芸能をどう継承させていくかということについて、児童生徒たちに機会を作るのは、いろいろ難しいところがあると思うんですが、私が知ってる例で言いますと、八幡町の石工さん達の雀踊りですね。あれを、八幡にありました石材店の方が近くの中学生に教えていたという話を聞きました。今、息子さんの方が続けていてるか。</p>

館長	<p>続けてやっておられます。</p>
議長	<p>続けてますかね。そういう形で、地元には伝わる伝統芸能を、近くの小中学校で継承していく方法もあります。それが青葉まつりであるとかいろんなどころに生きてくるんだらうと思いますので、今お話がありましたようなこともですね、地元の小中学校などでうまく、教育事業・社会事業の中に、クラブ活動でもいいんでしょうけど、組み込んでいただけると、いいかなと。その際に当館でいろいろなサポートをしていただける体制があると、なおよいかと思います。そういう可能性はありますか。</p>
館長	<p>非常に芸能の継承というのは難しく、何が一番難しかったかというと、もともと担い手が高齢になってたところに今回の被災で人がいなくなってしまったっていうことで、非常に難しい部分があります。ただ、幸いなことに、この津波で芸能が危機になったことで、改めて地域でその芸能というものが、その心の結びつきにとって非常に大切な役割を果たしていたんだっていう、そういう見直しの声がいろいろなところから聞こえてきておまして、実は震災の前に中断したところが、震災後に復興したっていう神楽も石巻の方にはありますんで、そういう郷土芸能・民俗芸能というものが地元の人たちにとって、自分たちが生活していく上でもいかに貴重で重要なものなんだっていうことを、まず、広める伝えること。そしてもう一つは担い手をまず地域に住んでる人、それからあとは学校で、何とかしていかないと、現実的にはやっぱりなかなか難しい面があるんだらうと思います。</p> <p>それについて、相談などあれば当館としても、ある程度助言ができると思いますので、もし、具体的にこういう形で動いてるんだっていう話があれば、こちらに教えていただければ、地元の教育委員会等と連携を取りながら、進めていきたいと思います。</p>
議長	<p>是非、小中学校ですらね、校長会あたりで広めていただければと思います。</p>
渡邊委員	<p>実は前任校ではやっていたんです。ただ、もともとの神楽は中浜というところの神楽だったんですね、中浜小学校というのがありまして。今震災遺構になったんですけど、中浜小学校の子供たちが中浜の神楽をやっていたんですが、中浜小学校はもう閉校してしまって坂本小学校と統合したために、その神楽をどうしたらいいかと職員や子供たち、地域の人達と話をしました。それで坂本神楽というもともとの神楽もあって、そこと中浜の神楽を何とか残したいということで、結局、どちらの神楽でもない坂本小学校の子供神楽っていうのを、今子供たちは学び続けています。二つ神楽の方たちに来ていただいて、この二つの神楽の話を聞きながらなんですが、教えてくださる方もやはり高齢なんですけどすごく頑張って教えてくださっています。しかし、津波でその神楽の発祥が、中浜にあった天神社っていう神社から来た神楽だったんですけど、その資料が全く流されてしまって発祥がない状況なんです。神社の宮司さんも亡くなられているので、なぜその中浜に天神社があって神楽が続いたのかっていう文献がないのが、子供たちにとってはちょっと深められないでいるところ。だからもし何かこちらの方で、資料とか何かこう、少しでも繋がるものがあれば、それを提示しながら子供たちがその中浜神楽について、もう少し自分たちの身近に感じてやっぱりつなげていきたいなっていうふうに思っていると思います。</p> <p>卒業生の中には、中学校でも続けたいっていう、今度は、坂本神社の方に週に1回、神楽を習いに行ってる子供たちがやっぱりいるんですね。そうやって繋がっていくはずなんです、坂本神楽だけじゃなく、もう消えてしまいつつある中浜についても、何か継承してくれる子供がいたら継承してくれる人がいたらなと思って、ご協力いただければありがたいと思って話をさせていただきました。</p>
議長	<p>御協力できるということですので。</p>
菊地委員	<p>よろしいですか。今のお話と、ちょっと重ねてなんですけど、やっぱり多賀城にも昔からの</p>

	<p>しし踊りとか、それから多賀城太鼓とかいろいろあります。やはり学校に入って、子供たちが学ぶことによって、大人も、その皆さんお年はもう十分召されてるんですけど逆に、子供たちと接してすごい元気になって、とても喜んでやっています。そこは文化財課とか教育委員会の方に行けば、きっといろんな学校で関わっている。先ほど松本教育次長さんが、総合計画の中で、文化とか芸術を残していきたいということをおっしゃってましたけども、そういう意味でも、やはり残していくんであればやっぱり子供たち、と言っても学校に何かそういう指導してもらえようなどところを作っていくと、何となく自然消滅になってしまうかなと思うので、是非、学校とそういうお神楽とか田植え踊りとかそれぞれ昔からのいろんな文化的芸能があると思いますので、是非学校と関わっていただきたいと思います。</p> <p>それからもう一つは、先ほどオンラインの話が出ましたけども、学校でもオンラインっていかタブレットとか、今年の4月から徐々に始まっていますので、是非、先ほど会長さんがお話なさったように、オンラインみたいな形で情報発信ができれば、その子供たちも使うことによって、どうやって上手にその子供たちが使えるかっていうのも、多分先生方のこれからの仕事の一つになるかなと思いますので、そうした中で歴史博物館をアピールしていただきたいと思います。アピールだけではないんですけども、中身もしっかり勉強させて、欲しいと思います。</p>
議長	<p>ありがとうございます。東日本大震災以後の復興の中で、地域の伝統芸能をどう再生させていくかという問題と、それから、今回のコロナの中で閉塞的な状況が出てきたわけですけども、両方に共通する要素もあると思いますしそれぞれ固有の要素もあるんですが、やはり地域の共同体というのがかなり衰弱してきている、特に被災地の場合は、そういうことが顕著になってます。こういう芸能っていうのが絆になる、とよく言われてますね。そういう博物館として伝統芸能についてのいろんな調査などは、これが蓄積されてきていると思いますので、是非地域再生ということについて学校や地域、子供会なども協力して、是非いい方向に進むようにご検討をお願いしたいと思います。</p> <p>ちょっとだいぶ時間が経ちましたので次の事業計画に移ります。 説明をお願いします。</p>
副館長兼 企画部長	<p>(説明の概要)</p> <p>【令和3年度事業計画】</p> <p>令和3年度についても、基本的な感染症対策を徹底するとともに、必要に応じて入館者数を制限してソーシャルディスタンスを確保するなど、県民の皆様が安心して来館いただける環境を整え事業を実施していく。</p> <p>1 企画展示事業</p> <p>(1) 常設展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合展示室は、これまでどおりの継続展示。 ・テーマ展示は、3つの展示室で合計14テーマの展示を行う予定。 ・映像展示は、東北地方の祭や民俗芸能、工芸技術の映像を上映。 ・今野家住宅は、四季折々の催事にあわせて飾り付けを変えながら展示公開。 <p>(2) 特別展示</p> <p>【デンマーク・デザイン】展</p> <p>令和3年4月23日(金)から6月27日(日)までの57日間開催予定。 デンマークはデザイン大国と呼ばれ、そのデザインは世界を魅了し続けている。本展ではデンマークデザインの食器や家具240点を展示し、すぐれたデザインを生み出し続けるデンマークの魅力に迫る。</p> <p>展示構成は、「国際的評価を得たデンマークデザイン」などで、記念講演会、ワークショップ、スポット解説を予定。目標観覧者数は3万6千800人。</p> <p>【ジュラシック・大恐竜】展</p> <p>令和3年7月17日(土)から9月12日(日)までの50日間開催予定。</p>

	<p>かつて地球に君臨していた恐竜の姿を、貴重な本物の化石と骨格標本、最新の研究成果に基づいて制作された復元ロボットなど、展示資料約100点を3部構成で展示。</p> <p>夏休み期間中であり、多くの家族連れの来館を見込み、目標観覧者数は9万6千人。</p> <p>【みちのく 武士が愛した絵画】展</p> <p>令和3年10月9日（土）から12月5日（日）までの50日間開催予定。</p> <p>みちのく各藩の武士たちが愛で、描かせ自ら描いた絵画を展示してその魅力に触れつつ、武士たちにとって絵画はどのような存在であったか、また、武士たちの活動が各地域の絵画制作活動にどのような特色を生んだのか、その一端を紹介する。展示資料は屏風、障壁画、絵画等約160点、関連行事として記念講演会及び展示解説を予定。目標観覧者数は1万1千800人。</p> <p>2 教育普及事業</p> <p>(1) 施設運営</p> <p>図書情報室は配架図書の充実、DVD視聴の活性化を図る。。こども歴史館については、これまでの防災教育活動のほか、新しい生活様式に対応したワークワゴン運営の展開、特別展と連動したミニ体験実施などにより学習支援の強化を図り利用者増につなげる。</p> <p>(2) 催事運営</p> <p>館長講座、博物館講座、体験教室等、1年を通じて催しを実施予定。</p> <p>(3) その他の教育普及事業</p> <p>地域の各団体と協力し、文化庁の国庫補助金を活用した事業を実施予定。</p> <p>3 調査研究事業</p> <p>考古、民俗、歴史、美術工芸、建造物及び保存科学の6分野で、科学研究費や文化庁の国庫補助金を活用し、調査研究事業を実施予定。</p> <p>4 資料管理事業</p> <p>令和2年度と同様に、資料の収集・保存・活用・修復に努めるとともに貸し出しや公開など利用促進に努める。また他機関からの資料調査依頼等についても随時受付ける。</p> <p>5 東日本大震災対応</p> <p>(1) 被災文化財の保全活動</p> <p>関係機関等と連携・協働し、資料の保全、修理活動を実施予定。併せて、被災文化財の修理や保存に関わる技術的な研究も推進予定。</p>
議長	<p>ありがとうございました。ただいまの事業計画につきましていかがでしょうか。</p> <p>「ジュラシック大恐竜展」はあたりそうですね。子供たちが、それこそ2回も見に行くんじゃないですか。夏休み企画として。ここでコロナが収まると、言うことないですね。</p>
今野委員	<p>コロナ次第でしょうね。夏休みですから。現在開催中の県美術館の中宮寺展もコロナの次の流行と大寒波の影響が大きくてですね。</p> <p>「ジュラシック」も一定程度の収束を願うしかないかなってところです。</p>
企画班長	<p>すいません。「ジュラシック大恐竜展」なんですけど、皆様のお話にありますように来館者がたくさん来るんじゃないかということで、当館と河北新報社それから東日本放送が主催になるんですが、その3者でその対応について、既にお話し合いをさせていただいてます。通常ですと、前売券はフリーで前売を買っていただいて、あと当日券の販売って形なんですけど、やはりこの展示は展示室内にどれぐらい入るかっていうことを想定しますと、1度に特別展示室に入るのは300人前後が限界だと思うんですね。そういったところから、換算していきますと1日の来館者数は2千数百から2,500人位が限界だと考えておりますが、3千とかそれ以上の方が来た時に、お客様の安全ということを考えてまして、週末土日、祝日それからお盆期間ですね、この期間については、日時指定のチケット販売をさせていただきたいという方向です。それ以外の日には、前売券のフリーなもの、当日券の販売。当日券は、日時指定券でもし売れ残りがありましたら、当館に来ていただいた時その数を提示しまして、本日分の残チケットが何枚あるので販売します、という形で、ちょっとハイブリット</p>

	<p>な形なんですけど、そういった対応でお客様の安全を第一に、安心して展示を見ていただけるようにという方向で企画しています。たくさん来ていただければありがたいことなんですけど、安全が第一だと思いますので、まずはそこを優先した形でチケット販売と運営をしたいということで、話し合いを進めている状況でございます。</p>
柳原委員	<p>この目標人数はコロナ禍が継続しても9万人を目指していらっしゃるのですか。</p>
企画班長	<p>予算を作成した段階ではもう少し安定した状態だったので、これくらいの数を想定してはるんですが、今の条件の中で考え直しますと、設定している数が全部来ていただければこれに近い数字になるんですが、実際全部の時間帯で埋まるわけではないと思いますので、そういったところで計算していくと6万5,000ぐらいが、一つの目安なのかなとは思っています。</p> <p>もう少したくさん来ていただいて上手く回れば、これに近い数値が出せるかなという形で、安全に運営できればと考えているところです。</p>
議長	<p>集まらないのも困るんですけども集まるのも困るという、要するに企画によってはそういう現象が起きるということですね。なかなか綱渡りなところもあると思いますけどいろいろ苦勞していただければと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
宮原委員	<p>2点あります。1点目は事業計画の特別展についてです。今話題となった「ジュラシック大恐竜展」はそのタイトルでお客さんもたくさん来られると思います。一番最初の「デンマーク・デザイン展」はタイトルがシンプルすぎると思うので、お客様が見たいと思うタイトルにしたらどうでしょうか。</p> <p>例えば、「デンマーク・デザイン展」の概要で紹介されている「幸福度ランキング1位」ということを前面に出して、「北欧幸福の形に触れる」などのサブタイトルをつけ、幸福の形がデンマークのデザインにつながるということを示して、展示のイメージをより具体的に伝える工夫が必要だと思います。「デンマーク・デザイン展」というタイトルだけでは、展示内容が分かりづらいと思います。</p> <p>2点目は、冒頭に平川会長もおっしゃったように、令和3年度の事業計画の中でオンラインやウェブサイトの利用を試験的にでも入れていただければと思いました。今回のコロナ禍は長期化すると思われまます。私も毎年できるだけ大学生に博物館の利用をしてもらおうと思い、今年の授業でも学生の博物館見学を入れたのですが、コロナで学生が出かけることができなくなってしまいました。その代わりに、今年は、全国のオンラインないしはホームページで展示情報が見られる博物館のサイトを探して、レポートを書いてもらうことをしました。この取組みで、これからは、大学や教育機関でも博物館のオンライン情報を学習に利用する機会は大いにあると感じました。</p> <p>充実した博物館のウェブサイトには、国内だけでなく世界中からもアクセスがあり、来訪者の範囲が格段にひろがります。東北歴史博物館の様々な催事は今のところ県内や近隣に限られることが多いのですが、ウェブサイトをもっと少し充実させることで、遠方の方にも興味を持っていただけるので、知名度を上げる良い機会かと思えます。</p> <p>コンテンツに関しては、資料の取り扱いが難しいのかもしれないですが、例えば、令和2年度のパネル展などはデータ化して、サイトにアップして皆さんに見ていただいてもいいのではないのでしょうか。できるだけ、コロナ禍をひとつのチャンスと捉え、これからの展示の仕方をもっと少し冒険することや、試験的に取り組んでみるということも考えられたらいかがかなと思いました。</p>
副館長兼企画部長	<p>はい。貴重な御意見どうもありがとうございます。</p> <p>まず、テーマにつきましては、これも実は巡回展でございますので、企画元がありまして、「デンマーク・デザイン」と言う形であちこち回ってきてるものではありますけど、今お話あ</p>

	<p>ったように、いわゆるキャッチフレーズとしまして表に出すときには、やはりちょっとこれでは、なぜデンマークデザインなのか、デンマークという国すらまだあまりご存じない方も多いと思いますので、少しわかりやすくキャッチフレーズとかで今おっしゃられました幸福度ランキングとか幸福の国とか、そういった言葉があればお客様もわかりやすいかと思しますので、検討させていただきたいと思います。</p> <p>ウェブの方につきまして、担当の方からお話しさせていただきます。</p>
<p>情報サービス班長</p>	<p>ウェブについては、昨年5月から本格的にフェイスブックとツイッターを始めております。お知らせしているのは、催事についての告知、現在開催中の特別展等の耳寄りな情報とか、あとはなかなか映像として出せないところあるんですけども、許される範囲で局所的な部分を撮影して皆さんにお伝えするというをやっております、昨年12月までの間に大体90回程度、週2回から3回という頻度で、情報を発信しているところです。これからもっと、例えば動画の発信とか、そういったところも含めて、館内の方で意見交換をしながら良い発信をしていきたいと思っております。</p>
<p>議長</p>	<p>タイトルの話は、過去のものでもちょっと硬いねっていうのがしばしば見受けられて、なかなか持ち込みの企画の場合だと、変えるのは難しいという話をお聞きしたんですけど、その辺は、こちら側が注文を付けるというような形をとっていただけるといいんじゃないかなというふうに思います。</p> <p>情報発信については、それこそ先ほど申し上げましたように、テーマ展をやってるわけですから、その企画を是非生かして、あれは定期的に変わるわけですよ。終わったらおしまいにしてしないでアップしておけばそれは宝になっていきますので、いろんな活用ですね。工夫していただければと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
<p>今野委員</p>	<p>1点だけよろしいですか。先ほどの話とも絡むんですけど、本年度の「宮城の復興と発掘調査展」というのは、まさに東北歴史博物館が取り組むべきストレートのテーマと内容だと思っただけなんですけど、こういう言い方も非常に失礼ですけど大変面白かったんですよ。この山元町の馬具とかですね、こんなものが出てきたんだとか、震災という一方で新たな資料が見つかったりすることがあるんだってことで非常に興味深かったです。それで震災から10年という、これを区切りとかは別としても、例えばやはり歴史博物館の一つの役割として、これも一つの歴史として後生に伝えていくとすると、文化財とか先程来の伝統文化もそうですけど、この博物館がどんな役割を果たしたかというのを、例えば常設の一部で見せるとかですね。</p> <p>コロナが一定程度収束してまた次の局面にきて、県内県外からいろんな人が、例えば企画展目当てでもいいんですけど来たときに、震災の事を後世に遺す展示が歴史博物館にもあるということは非常に大事なことだと思うんですね。</p> <p>ただ総合展示の常設展のところも結構密度が濃いですからなかなか新たなものを作れって私が思いつきで言って、はいやりましたよって話じゃないと思うんですけど、震災のことを伝えるような展示も一つのコーナーでもいいので、お考えになったらどうかと思いました。以上です。</p>
<p>副館長兼企画部長</p>	<p>お話のとおりでして、10年という節目を受けて当館でも震災展示の研究会というものを行ってまいりまして、いろいろな展示資料の素材でどのような形で展示していくのがふさわしいのか、勉強会なども行ってまいりましたので、震災をどうやってこの後伝えていくのかということにつきまして、学芸員含めて皆で今研究しているところですので、何らかの形で、展示等で紹介できるような場を作りたいと思っております。</p>
<p>議長</p>	<p>ありがとうございます。他にいかがですか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは事業計画については御了解いただいたということでよろしいですね。</p>

<p>議長</p>	<p>では、ここで少し休憩します。</p> <p>(5分間休憩)</p> <p>再開いたします。</p> <p>議題3 東北歴史博物館中長期目標 令和2年度自己評価について、事務局より説明願います。</p>
<p>副館長兼 企画部長</p>	<p>(説明の概要)</p> <p>【東北歴史博物館中長期目標令和元年度自己評価(12月末現在)】</p> <p>○取り組みの概要について</p> <p>I 目的</p> <p>当館では、開館以来の博物館を取り巻く環境の変化や、東日本大震災への対応という課題に取り組むため、平成25年度からの5年間を中長期目標の前期、平成30年度からの5年間を中長期目標の後期と位置づけ、より魅力的な博物館を目指して取組を進めている。</p> <p>III 取り組み項目</p> <p>平成30年度から始まった後期取組では、前期から活動方針等の大きな枠組みの変更はせず、「1常設展示・企画展示」から「9東日本大震災対応」まで9つの項目を設定。さらにこれらの項目の下に、16の活動方針と31の達成目標を設定して取り組んでいる。</p> <p>重点目標として、「“み”たい博物館情報の創造(はくぶつかん情報創造プロジェクト)」と「東日本大震災対応」の2つを柱に据え、関連する個別の達成目標を重点事業に位置づけ、人々を魅了し「“み”たい」をくすぐる博物館活動を創造することを目指す。</p> <p>IV 結果概要</p> <p>評価の方法は、「4十分達成」「3ほぼ達成」「2やや不十分」「1不十分」の4段階を評価基準とし、全職員で評価を行った。その後、中長期目標達成推進委員会(館長、副館長、部長、班長で構成)で、全職員の評価結果を基に館としての評価を決定し意見を付してまとめたところ、総合評価では「ほぼ達成」、個別評価では「十分達成されている」「やや不十分である」がそれぞれ1つの目標で、その他28の目標で「ほぼ達成」という結果となった。</p> <p>なお、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響が大きく取組みが不能となった1項目を評価から除外している。</p> <p>○個別の達成目標(抜粋)についての説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 達成目標NO①『総合展示室のリニューアルを目指し基本的な構想を策定します。』は、令和4年度までに当博物館としての基本的な構想(考え方)を策定することとしている。評価としては、新型コロナの影響で予定していた調査活動が制限される中、先行事例の情報収集は進められたものの、検討過程の共有が不十分であったことから「2やや不十分」となった。 ・ 達成目標NO④『外部の巡回展を積極的に誘致し、幅広い利用者の来館を推進します。』は、「GIGA・MANGA展」では、家族連れを中心に若い世代の集客に成果が見られ、幅広い観覧者の拡大につながった。また、積極的に大規模巡回展の誘致に取組み、来年度2つの大規模巡回展の開催が決定したことから、「4十分達成されている」とした。 ・ 達成目標NO⑮『館のロゴを制定し、館のシンボルとして活用します。』は、昨年度募集を行い制定したロゴマークの制作者への表彰式を実施した。また、ホームページやポスター・チラシなど様々な媒体を使って周知し、ロゴマーク活用に取組んだことから「3ほぼ達成されている」とした。 ・ 達成目標NO⑳『県立博物館として県内の文化財の保全活動をリードし、活動全体を推進します。併せて被災文化財の修復や保存に関わる技術的な研究も進めます。』は、

	<p>県内市町（亘理町、石巻市、南三陸町、大崎市ほか）が直面している保全活動を、行政の枠組みを超えて支援を行ったほか、今後の保全活動の在り方、情報共有及び支援体制についても検討を進めている。評価としては、事業は着実かつ円滑に進んでいるとして、「3ほぼ達成」とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合評価は、9つある取り組み項目のうち7つの項目について、今年度取組の良かったところ、逆に反省すべきところを総括し記載している。総合評価における推進委員会の意見としては、「「ほぼ達成」と評価するが、今後も「”み”たい博物館」を目指し、各達成目標の取組みを進め、館の利用促進につなげていく。」とした。成果が今ひとつ上がらなかったものについては、課題に継続して取り組み、成果が上がったものについても維持向上につながるよう取組み、様々な博物館活動の情報提供と発信に努めていく。
議長	<p>総合評価は、ほぼ達成されている3ということであります。</p> <p>この協議会は外部評価委員会としての役割も持っていると思いますので、今御報告があったような自己評価に対して、外部評価委員としてはどういうふうに評価をするかという観点を含めて、御意見があればお願いしたいと思います。</p> <p>私から聞きたいんですが、四番の外部の巡回展のものが評価4となっていて、「GIGA・MANGA展」もそうですし、来年度の「ジュラシック」も相当見込めるだろう、いい企画だろうというようなことが、評価の前提になってると思います。それはそれで結構だと思うんですけど、要するに特に外部の巡回展、いいものをどうやってこちらが採用できるかということ、ここに成功するかどうかかなり関わっているようですね。ですから、どのぐらいの件数が持ち込まれてきて、どういう審査体制の中で企画の選別がなされてるのかというようなことですね、河北さんも一緒に企画によってはそれに入っておられるということなんですが、ちょっとその辺を教えてくださいませんか。どういうふうにやってるんですか。</p>
副館長兼企画部長	<p>外部の巡回展につきましては、主にマスコミが多いですが主催の方からPRの呼びかけがありまして、主に新聞社さんの企画が一番多くなっています。その他にもテレビ局ですとか専門にそういう企画を行っている業者の企画の持ち込みというのもあります。具体的にどのくらいの数だったかということについては担当から。</p>
企画班長	<p>例えばですが、今年度の例を申し上げますと今年度は非常にお話が多かったです。というのは、マスコミ関係から全部で4案いただいてたっていうのと、それから今回採用したのもですね。そうしたお話について基本的には全て9月の段階で次年度とその次の年度の特別展を決めていくわけですが、その段階で職員全体にこういった話があると、全体の意見を聞きます。そのあと班長以上で会議をもちまして、その中でさらに検討して絞り込んでいくという形で決めさせていただいてるということです。</p>
議長	<p>そうすると、どれを採用するかは大体館の方の中のメンバーで判断するってことになりますか。河北さんとかKHBさんとか主催に入ってますけどそれは提案する側なんですか。そうすると提案をどんどん良いの持ってきてくださいと言わなきゃいけない。そういうオファーがいっぱい来るようにということだと思いますが、是非、いい企画を持ってきてもらうといいんですけど。</p> <p>他にいかがでしょう。</p> <p>私からもう1点。9番ですが、調査研究予算の確保。外部資金の件ですけども、これまでも文化庁とかいろいろ頂いてきているということですけど、ここに上がっているのは保存科学が1本ということですね。科研費もいろんな分野が当然あるわけですけども、歴史とか民俗とかですね、そういった分野からの科研費の申請は過去にもあったような気がするんですが、そういう動きというんでしょうか。館の中でどういう企画を立てて、科研費にト</p>

学芸部長	<p>ライしているかってことですがその辺の動きは。</p> <p>科研費なんですけれども、できるだけ多くの職員で、資金の確保という観点から提案・取り組みをというふうに話しております。ただ、なかなか上がってこないところも現実にはありまして、その辺は私の方でもちょっとこれから考えていかなきゃいけないと思っております。今回も、来年度に向けて応募が一つしかなかったと。これも今お話があった保存科学系なんです。他に他機関の研究分担者としては、民俗とかいろいろ出ておりますので、まだ、今年度は申請中で今年の4月に結果がわかるんですけども、さらに次の回は幅広く応募できるような体制をとっていきたいと思っております。</p>
議長	<p>研究機関大学含めて、外部資金をどう確保してくるかが今、随分尻を叩かれてる。どこでもそうなんです。東北大学は1人1件必ず申請しなさい。私がいたころはそういう話で、ずっと組織の中でもそういうことを言い続けて来てたんですけども。申請しないとわからないので、やはりそれだけ申請するという、申請率と採択率が部局評価の基準になったりするんですよ。私が言ったからそういうふうな話にもなっていたわけで。ある意味では、圧力をかけて申請させるというような動きが結構多いんですね。それを、自主性に任せてるとなかなか申請率が伸びないというようなこともあり、それがいいのかどうかはなかなか評価の問題がありますので、必ずしもそうしてくれという話ではないんですけども。</p> <p>外部資金は今間接経費で、直接経費以外の運営資金としても、申請に応じて組織運営の中で使えるような経緯がありますので、研究のためだけという話ではないんですね。ですから、組織として科研費申請を促すっていうのは、先細りになりつつあるような全体としての予算をどうやって補うかという点からも、申請も組織としてはありうるということだと思いますので、その辺は館の方の自主性ということもあると思いますが、多分デメリットはそんなにない。申請して採択されて研究費ができて運営費もプラスになる。採択されると一生懸命やらなきゃいけないと言うことはあるんですけど。</p> <p>あとやはりどのくらい採択されるかという部分が、機関の研究力を評価する外部的指標にもなってきたりするところがありますので、ぜひ科研費の申請率を高めていくと、そういう工夫をお願いできると思います。</p>
学芸部長	<p>大変参考になりました。</p> <p>ちょっと、うちの方でそれをすぐ当てはめるとするのは難しいことだと思うんですが、科研費ですとか外部資金の獲得に向けて、そういう体制づくりを頑張っていきたいと思えます。</p>
宮原委員	<p>今回の外部資金のことについて、情報提供です。もう既に利用されているかもしれませんが、今日本には43個所のジオパークがあり、そのうち8個所が東北にあります。ジオパークでは、そのエリアの中で、地形地質だけではなく、生活文化や地域全般の研究をしてくれる人を募集して、研究費を提供しています。金額としては、そんなに大きなものではありませんが、ジオパークによっては、50万円前後を出すところもあります。研究成果はジオパークで発表したり、報告書を作成してもらいますが、結構気軽に使える予算を持っていますので、こうしたものを利用されるのもいいのではないかと思います。研究費は学生から一般の方まで使えるものが多いので、是非御利用ください。</p>
学芸部長	<p>ありがとうございます。いろいろ、活用できるものは活用して研究の方進めてまいりたいと思っております。</p>
議長	<p>他によろしいでしょうか。</p> <p>では、議事については以上ということにいたします。</p> <p>次にその他ですけど、文化財保存活用大綱について、御説明をお願いします。</p>

文化財課長	<p>(説明の概要)</p> <p>【宮城県文化財保存活用大綱(案)の概要について】</p> <p>○大綱策定に至った経緯について</p> <p>文化財は国民共有の財産であるが、近年文化財継承の基盤であるコミュニティが脆弱化し、文化財の滅失や散逸が喫緊の課題となっている。また地域活性化の資源として文化財への期待も高まっている。このような社会情勢の変化を踏まえ、平成30年6月、有形・無形の文化財をまちづくり等の地域活性化に生かしつつ、文化財継承の担い手を確保し、地域社会総掛かりで文化財の継承と活用に取り組むことを目的に、文化財保護法が改正された。この法改正により都道府県は文化財の保存活用に関する総合的な施策となる大綱を策定できることとなった。また市町村は都道府県の大綱を踏まえ、文化財の保存活用に関する総合的な地域計画を策定し国の認定を受けることができることとなった。市町村はこの地域計画を策定することにより文化財を町づくりや観光に生かすことができるほか、地域計画が国の認定を受けた場合は、国庫補助金の補助率嵩上げや新たな補助金が活用できるなどのメリットがある。</p> <p>○大綱の概要について</p> <p>大綱策定にあたっては、県の文化財保護審議会ですべて3回検討をおこなってきた。審議会では各分野の委員から意見を伺ったほか、市町村の意見等も反映させている。配付資料では、大綱策定の背景と目的を示している。また、県内文化財の保存・活用に関する現状を6つの観点で整理し、その結果見えてきた人材の不足や体制の未整備などの課題をまとめている。</p> <p>文化財関係者が向かうべき基本理念として「永続的な文化環境の維持と創出」を掲げ、基本理念推進のための3つの視点を示した。また、基本理念や推進の視点を踏まえた4つの基本方針を示している。方針1の「文化財を守り育む土台を作る」では、人材育成と体制整備、方針2の「文化財を適切に理解する」では、文化財が有する多様な価値の理解促進、方針3の「文化財を循環型社会に組み込む」では社会と連動した持続的な保存活用の推進、方針4の「文化財の災害対応力を高める」では防災体制の整備と防災意識の向上を目指す。方針毎に具体的施策を掲げその実現を目指すことにより文化財の確実な継承と活用が図られるものと考えている。</p> <p>○進捗状況と今後の進め方について</p> <p>大綱案については昨年度から文化財保護審議会ですべて検討されており、内容について概ね了解が得られている。またパブリックコメントを実施し県民の意見を伺った。今後2月18日の宮城県文化財保護審議会、3月18日の教育委員会を経て完成する予定である。</p>
議長	<p>文化財について今後どういう取り組みをするかという県の方針ですが、いかがでしょうか。大体網羅はされてるなという感じはするんですけど、大綱を決めてこれだけのいろんなことをやっていくという時の予算の措置はどうなっているんですか。これからでしょうか、こういうの作ったのはいいけれども、文章だけにならないようにどうやって予算化していくかとか。</p>
文化財課長	<p>すぐに使える予算というのはないんですが、地域活動計画を策定するにあたっての国庫補助金はございますので、そういったものは利用していただけるものと聞いております。</p>
議長	<p>今のは国の話ですね。県としてはどうですか。</p>
文化財課長	<p>県としてはすいません。特にそれに関するものの補助金等はございません。</p>
議長	<p>なかなか予算的な裏付けがなくて、これだけのことをやっていかなきゃいけない。今までの体制の中で工夫してやりなさいよって話になるんですか。</p>

文化財課長	まずは、大綱を踏まえまして地域で自分たちの市町村で考えていただくと。その中でまたいろいろ細かな取り組みが出てくると思うんですが、そうしますとその中でもしかすると使われてくる補助金が出てくると思いますので、その時はこちらからも御説明したり助言等していきたいと思います。
議長	そうすると、これは各市町村が実施主体になるとということですか。
文化財課長	大綱を策定するのはあくまで都道府県なんですけども、地域計画を作るのは市町村になります。私どもとしては是非作って欲しいと思っはいるんですが、絶対作りなさいっていうものではないんですが。ただ、地域のそれぞれ文化財の継承を考える上では、地域計画を作ることが大事だと思っておりますので、この大綱を作りますとともに、是非、市町村でも、趣旨を踏まえて作ってくださいということもアナウンスしてございます。
議長	それで今のところ作っているのが一つだという。
文化財課長	大綱ができてから作ろうと思ってる所はあるとは思いますが、大綱ができる前に着手してるのは今のところ一つです。
議長	歴史に気合いを入れてる町はやっぱりそういうふうに、やるってことですね。他にいかがでしょうか。
柳原委員	東北歴史博物館はこれをどう受け止めるのか、或いは、東北歴史博物館がこの大綱の中でどのように位置付けられてるとか、その辺はいかがでしょうか。
文化財課長	東北歴史博物館は、情報発信する場であったり収集する場であったり、いろいろな役割を持ってるところもありますので、幅広く文化財の魅力を発信したり、保存や教育普及に関わるいろんなところに関わってくると思いますので、これらを踏まえて今日御説明のあったいろんな事業にいかしていただきたい。そしてまた市町村への情報発信に生かしていただければと思っております。
議長	市町村で独自にまとめられるところが、そんなに多くないかもしれないなっていう感じはしますよね。大きな市あたりはできるかもしれませんが、そういう時に県の文化財課とか東北歴史博物館とかがどういうアドバイスができるかっていうことも、地域計画策定できるかに関わってくるのかなっていう感じがします。各市町村が独自にやるということに委ねるということだけではなくて、サポート体制を是非、文化財課、東北歴博あわせて構築していただければと思います。言葉だけではなく実質が伴うような形にいただければと思います。 よろしいでしょうか。 用意された議事は以上でございます。ありがとうございました。

以下省略